

酸性白土×光触媒

深呼吸®

白土漆喰

呼吸
COKYU

施工マニュアル

石膏ボード上のクロス面編

笑緒一

WATSHOI

商品紹介

商品名	容量	施工方法・面積
酸性白土 深呼吸	10kg/袋	● コテ塗り：約7㎡/袋
白土漆喰 呼吸	10kg/袋	● コテ塗り：約10㎡～12㎡/袋
S P ・下地ジョイントパテ材 ・下地調整材	5kg/袋	● パテジョイント処理の場合：約50㎡/袋 ● 下地調整の場合：約10㎡～12㎡/袋 ● SPシーラーの場合：約20㎡～25㎡/袋 (SPとシーラーを混ぜてローラーで塗布する場合)
S K 深呼吸・呼吸 専用下地シート	50m/本 46㎡/本	● SKシート寸法 50m×920mm×0.3mm 貼り面積 46㎡/本 (施工マニュアル別紙用意)

施工面積は、一般的な施工面積の目安となっております。初めてのご使用の場合には、パターンの大小や塗り方などによって増減しますので10%程度多めに積算することを推奨しております。

施工基準

新設の石膏ボード（3種類の施工）

- ①シーラー(3倍液)塗布→ジョイントパテ処理→上塗り仕上げ
- ②シーラー(3倍液)塗布→ジョイントパテ処理→下地塗り処理→上塗り仕上げ
- ③SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

深呼吸 呼吸

<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

石膏ボード上のクロス面（3種類の施工）

- ①SPシーラー塗布→上塗り仕上げ
- ②シーラー(3倍液)塗布→下地塗り処理→上塗り仕上げ
- ③クロスメクリ→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

古壁(砂壁・繊維壁・じゅらく壁・京壁)

- ①既存壁メクリ→シーラー(3倍液)塗布→下地塗り処理→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

ラワンベニヤ

- ①灰汁止め処理→シーラー(3倍液)塗布→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

コンクリートおよびモルタル面

- ①灰汁止め処理→シーラー(3倍液)塗布→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

ケイカル板

- ①灰汁止め処理→シーラー(3倍液)塗布→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

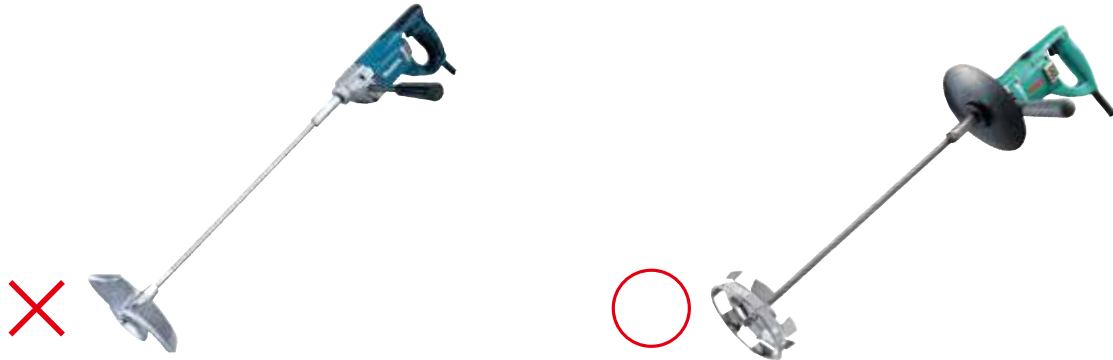
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
-----------------------	-----------------------

■仕上げ材および下地処理材の作り方

＜施工時の注意事項＞

材料を練るのに左側のプロペラ式の羽の攪拌機を使用すると練り玉ができることがあるために使用しないでください

右側のプロペラ式の羽の攪拌機で材料を練って下さい



酸性白土
深呼吸

1. 基準水量(6ℓ～6.5ℓ)を大きめの容器に入れます
(季節によって水量を調整してください)
2. 水の入った容器に深呼吸を投入して5分以上、材料のかたまりが無くなるまで入念によく練ってください
3. 10分程、練り置きをします
4. 再度2～3分攪拌をしてから塗りはじめてください

白土漆喰
呼吸

1. 基準水量(5.5ℓ～6.5ℓ)を大きめの容器に入れます
(季節によって水量を調整してください)
2. 水の入った容器に呼吸を投入して5分以上、材料のかたまりが無くなるまで入念によく練ってください
3. 10分程、練り置きをします
4. 再度2～3分攪拌をしてから塗りはじめてください

■仕上げ材および下地処理材の作り方

シーラー3倍液

1. シーラー1ℓを容器に入れます
2. 水2ℓをシーラーの入った容器に入れます
3. シーラーと水をよくかき混ぜ合わせるとシーラー(3倍液)の完成です

SP専用ジョイントパテ材

※混合比率

- A ジョイント目地埋め用パテ材 SP 1kg : シーラー(3倍液) 400cc
- B 不陸調整用 SP 1kg : シーラー(3倍液) 500cc

1. 目地埋め用パテ材の場合は容器にSP 1袋(5kg)に対してシーラー(3倍液) 2ℓを入れます
2. 不陸調整材の場合は容器にSP 1袋(5kg)に対してシーラー(3倍液) 2.5ℓを入れます
※目地埋め用パテ材から不陸調整材を作るにはシーラー(3倍液)を500cc足してください
3. シーラー投入後、入念に攪拌してください
4. SP(目地埋め用パテ材および不陸調整材)のできあがりです

SPシーラー

※混合比率

SP 1kg : シーラー(3倍液) 800cc

1. 容器にSP 1袋(5kg)に対してシーラー(3倍液) 4ℓを入れます
2. シーラー投入後、入念に攪拌してください
3. 下地調整材として代用することができるシーラーが出来上がりです
このシーラーを『SPシーラー』と呼びます

【注意事項】

SPシーラー塗布→上塗り仕上げ施工の場合、下記の事が発生する恐れがありますので事前によく考慮をした上で施工を行ってください

- 紙クロス、布クロス、抗菌汚れ防止クロスには施工はできません
- クロスが下地のボードから浮いている状態で施工すると上塗り仕上げ乾燥後に細かなヒビ割れが入ることがあります。この状態になるとクロスを全てめくりーからの作業となります。十分に気を付けて作業を行ってください(要注意事項)
- 上塗り仕上げ後表面が光っている状態になる事がある

- 入隅部に関しましてはクラック(ヒビ割れ)が生じやすい
- 室温が15℃以下になる恐れがある場合は、乾燥が遅く白華発生および凍害の原因となりますので、施工する場合は温度管理を厳重に行ってください
- パテ処理後、半乾きの状態で上塗りをすると吸水の加減でジョイント処理部分のラインが乾燥後も消えない場合があります。十分に乾燥をさせてから上塗り作業を行ってください
- 上塗り作業を行う場合また作業後の換気や室温には十分に配慮をしないと乾燥後に表面が光った状態になります。この状態で仕上がると壁材の機能が1/3に低下します
- 仕上げ材は1回塗りで仕上げてください。パターンづけは塗り付けた流れで行ってください
- おっかけ塗りは時間をおかずに乾燥する前に行ってください
- 半乾きの状態で鏝で触ると色ムラや模様の変化の原因になるので触らないでください
- 霧吹き等で水かけをしながらの施工は色ムラの原因になるので行わないでください
- 一度練った材料はその日に使用してください。練り置きはできません

STEP①

◆ SPシーラーを塗布

①ビニールクロスの汚れている箇所を綺麗に拭き取ってください
汚れたまま施工をすると灰汁の原因となります



(注意事項) ②ビニールクロスがボードにしっかり付いているかを確認してください
(目視では確認できない場合がありますご注意ください)



③ビニールクロスが浮いている箇所や剥がれている箇所はカッターで切り取り
ファイバーテープを貼りSP（不陸調整用）で処理を行ってください



④ビニールクロスのジョイント箇所、チリ際はタッカーを10cmピッチで
留めてください



⑤SPシーラーを全面にローラーで塗りつけてください



⑥SPシーラーを完全に乾燥させて上塗り作業を行ってください
(乾燥時間1日～2日)

STEP②

◆ 上塗り仕上げ

基準水量（6ℓ～6.5ℓ）を守り材料を攪拌機で5分間よく練り約10分間
練り置きをして、再度2～3分攪拌機で練った後にご使用ください

【注意事項】

シーラー（3倍液）塗布→下地塗り処理→上塗り仕上げ施工の場合、下記の事が発生する恐れがありますので事前によく考慮をした上で施工を行ってください

- 紙クロス、布クロスには施工はできません
- クロスが下地のボードから浮いている状態で施工をすると下地塗り処理、上塗り仕上げ乾燥後に細かなヒビ割れが入ることがあります。この状態になるとクロスを全てめくりーからの作業となります。十分に気を付けて作業を行ってください（要注意事項）

- 入隅部に関しましてはクラック（ヒビ割れ）が生じやすい
 - 室温が15℃以下になる恐れがある場合は、乾燥が遅く白華発生および凍害の原因となりますので、施工する場合は温度管理を厳重に行ってください
- パテ処理後、半乾きの状態で上塗りをすると吸水の加減でジョイント処理部分のラインが乾燥後も消えない場合があります。十分に乾燥をさせてから上塗り作業を行ってください
- 上塗り作業を行う場合また作業後の換気や室温には十分に配慮をしないと乾燥後に表面が光った状態になります。この状態で仕上がると壁材の機能が1/3に低下します
- 仕上げ材は1回塗りで仕上げてください。パターンづけは塗り付けた流れで行ってください
- おっかけ塗りは時間をおかずに乾燥する前に行ってください
- 半乾きの状態で鏝で触ると色ムラや模様の変化の原因になるので触らないでください
- 霧吹き等で水かけをしながらの施工は色ムラの原因になるので行わないでください
- 一度練った材料はその日に使用してください。練り置きはできません

STEP①

◆シーラー（3倍液）を塗布

①ビニールクロスの汚れている箇所を綺麗に拭き取ってください
汚れたまま施工をすると灰汁の原因となります



(注意事項) ②ビニールクロスがボードにしっかり付いているかを確認してください
(目視では確認できない場合がありますご注意ください)



③ビニールクロスが浮いている箇所や剥がれている箇所はカッターで切り取り
ファイバーテープを貼りSP（不陸調整用）で処理を行ってください



④ビニールクロスのジョイント箇所、チリ際はタッカーを10cmピッチで
留めてください



⑤シーラー（3倍液）をビニールクロス全体にたっぷり塗ってください

STEP②

◆下地塗り処理

市販の下地調整材を丁寧に面を押さえて塗ってください

(下地調整材を塗り終えて1日～2日完全に乾燥をさせてください
色ムラ・鏝ムラの原因になります)

(下地調整材を塗り終え細かなヒビ割れや浮きがないかしっかりと確認を
してください)

(ヒビ割れや浮きがある状態の箇所は再度手直しを行ってください)

STEP③

◆上塗り仕上げ

基準水量を守り材料を攪拌機で5分間よく練り約10分間練り置きをして
再度2～3分攪拌機で練った後にご使用ください

(季節により練りかげんをよく確認し水の調整を行いよく練ってご使用ください)

(上塗り乾燥後細かなヒビ割れが入ることがあります。クロスが下地のボードから
浮いたときになる現象でこのような状態になると全てのクロスをめくりーから
の作業となるのでご注意ください)

【注意事項】

クロスメクリ→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ施工の場合、下記の事が発生する恐れがありますので事前によく考慮をした上で施工を行ってください

●**クロスを剥がす時にペラペラと剥がれかけの裏紙や空気が入っている箇所の裏紙は必ず全て綺麗に剥がしてから施工を行ってください**

- 入隅部に関しましてはクラック(ヒビ割れ)が生じやすい
- 室温が15℃以下になる恐れがある場合は、乾燥が遅く白華発生および凍害の原因となりますので、施工する場合は温度管理を厳重に行ってください
- パテ処理後、半乾きの状態で上塗りをすると吸水の加減でジョイント処理部分のラインが乾燥後も消えない場合があります。十分に乾燥をさせてから上塗り作業を行ってください
- 上塗り作業を行う場合また作業後の換気や室温には十分に配慮をしないと乾燥後に表面が光った状態になります。この状態で仕上がると壁材の機能が1/3に低下します**
- 仕上げ材は1回塗りで仕上げてください。パターンづけは塗り付けた流れで行ってください
- おっかけ塗りは時間をおかずに乾燥する前に行ってください
- 半乾きの状態で鏝で触ると色ムラや模様の変化の原因になるので触らないでください
- 霧吹き等で水かけをしながらの施工は色ムラの原因になるので行わないでください
- 一度練った材料はその日に使用してください。練り置きはできません

石膏ボード上のクロス面

③クロスメクリ→SK(専用下地シート)→上塗り仕上げ

STEP①

◆クロスメクリ

既存のクロスを剥がすとクロスの裏紙が残る事がありますが石膏ボードにしっかりと付着している裏紙はそのままでもいいですがペラペラと剥がれかけの裏紙や空気が入っている箇所の裏紙は全て綺麗に剥がして施工をしてください

STEP②

◆SK(専用下地シート)施工

※施工マニュアルは別紙を確認

STEP③

◆上塗り仕上げ

基準水量を守り材料を攪拌機で5分間よく練り約10分間練り置きをして再度2~3分攪拌機で練った後にご使用ください

(季節により練りかげんをよく確認し水の調整を行いよく練ってご使用ください)